

萩市企業景況調査

DI方式

令和4年7月～9月期 実績
令和4年10月～12月期 予測

《調査機関》
萩商工会議所

DI(ディフュージョン・インデックス)方式とは？

DIは各調査項目について判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値は景気の上向き傾向(「良い」)の回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向(「悪い」)の回答割合が多いことを示す。

◎DI = (増加・好転など「良い」の回答割合)
- (減少・悪化など「悪い」の回答割合)
※設備投資は割合(%)

景況の概要

物価上昇・コスト負担増加、厳しい見方続く

令和4年10月実施の景況調査の集計結果は以下のとおり(調査対象企業:萩市内60社、回収率90%)。

生産・売上 前期比は建設業が横ばい、それ以外の業種は増加となった(平均22.2%)。前年同期比では前期比と同様に建設業が横ばい、それ以外の業種は増加となった(平均27.8%)。今後(10～12月期)の見通しでは建設業・卸売業が横ばい、それ以外の業種は増加すると予測(平均20.4%)。小幅ながらも全体的に改善傾向がみられる。

収益 前期比は製造業が横ばい、小売業が減少、それ以外の業種は増加となった(平均7.4%)。前年同期比では建設業が横ばい、製造業・小売業が減少、それ以外の業種は増加となった(平均14.8%)。今後(10～12月期)の見通しでは小売業が減少・卸売業が横ばい、それ以外は増加と予測(平均14.8%)。特に小売業は生産・売上は増加傾向にあるものの物価上昇・コスト負担増加分の価格転嫁が追い付かず、収益確保が難しい状況にある。

資金繰り 前期比は小売業が横ばい、製造業・卸売業が悪化、それ以外の業種は改善(平均1.9%)。今後(10月～12月期)の見通しでは、建設業・サービス業が改善、卸売業・小売業が横ばい、製造業・観光関連業が悪化と予測(平均▲3.7%)。

従業員数 全業種で人員不足という状況にある(平均38.9%)。

経営上の問題点 ①仕入れ価格の上昇 29.6% ②人材の確保難 22.2% ③需要の停滞 18.5%の順となった。

今後の業界動向 業種間にばらつきが見られ、各業界の景気の見通しはサービス業・観光関連業が好転、それ以外の業種は停滞と予測(平均▲5.6%)。全国旅行支援の再開や規制緩和による客足回復の期待が高まるも、円安や物価上昇に歯止めがかからず、収益の悪化、コスト負担増加の懸念から先行きは厳しい見方が続く。

景況に関する生の声 ■資材の値上げが著しい。今後も続くと予想する(住宅建築)。■コロナ禍で沈んでいた需要の一部は戻りつつあるが、円安と物価高騰の影響は大きく厳しい状況(木製品製造)。■電気大幅価格上昇・原材価格の高騰(原料がない場合もある)、資材が遅延及び価格の上昇(海産物加工)。■仕入れ価格の上昇、経費の増大。販売価格になかなか転嫁できない(精肉卸)。■山口県や萩市のクーポンによって小売りが好調。全国旅行支援に期待(特産品販売)。

項目 / 業種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	観光関連業	平均	前年平均	前々年平均	
生産・売上	前期比	0.0	20.0	20.0	16.7	33.3	44.4	22.2	5.5	▲7.1
	前年同期比	0.0	20.0	20.0	16.7	44.4	66.7	27.8	▲18.2	▲26.8
	4年10月～12月期見通し	0.0	40.0	0.0	33.3	33.3	22.2	20.4	3.6	23.2
収益	前期比	10.0	0.0	20.0	▲50.0	11.1	33.3	7.4	▲14.5	▲16.1
	前年同期比	0.0	▲10.0	20.0	▲16.7	11.1	77.8	14.8	▲16.4	▲35.7
	4年10月～12月期見通し	20.0	40.0	0.0	▲33.3	22.2	22.2	14.8	▲7.3	8.9
資金繰り	前期比	20.0	▲20.0	▲30.0	0.0	22.2	22.2	1.9	▲9.3	▲10.7
	4年10月～12月期見通し	10.0	▲10.0	0.0	0.0	11.1	▲33.3	▲3.7	▲16.7	▲7.1
従業員数	4年9月末	50.0	20.0	60.0	16.7	55.6	22.2	38.9	41.8	33.9
設備投資	(実績)	50.0	50.0	20.0	16.7	11.1	33.3	31.5	35.2	21.4
	(計画)	40.0	70.0	20.0	16.7	44.4	44.4	40.7	26.4	21.8
業界動向	▲30.0	▲20.0	▲10.0	▲33.3	22.2	33.3	▲5.6	▲55.6	▲41.8	